

患者が行き場を失う

「公的病院を残して」署名5070人分

住吉病院問題 大阪市議会に提出

「住吉市民病院を充実させる市民の会」は6日、大阪市は責任を持って2018年4月以降もとぎれることなく、出産も入院もできる公的病院を残すことを求める陳情署名を大阪市議会に提出しました。1月17日から集めた署名5070人分を提出しました。

「市民の会」

大阪市は、3月末で閉院する住吉市民病院の医療機能を4月に開院させる住吉母子医療

センター（仮称）と民間病院に引き継がせる計画でしたが、4度にならぬ民間病院の誘致に失敗し、断念。新たに市立大医学部付属の新病院を誘致する方針

を公表しましたが、方針通り進んだとしても開院まで6年かかり、その間、小児科と産婦人科の診療所を開設し外来だけの暫定診療を

「ママの会」は会見した「市民の会」の辻井大介事務局長は「このままでは、住吉市民病院の医療機能が継承されず、住吉市民

「子どもの命にかかわる」

「ママの会」医療機能継続を

「住吉市民病院をまもるママの会」（1月24日結成）は6日、大阪市役所内で記者会見し、「住吉市民病院の

市民病院を利用して母親たちが子どもを連れて出席し、思いを語りました。安達明日香代表は「住吉市民病院を守

病院の入院病棟は今月28日で閉鎖され、利用している患者さんが行き場を失う」と訴えました。市民の会・西成の香田法子さんは「アレルギーで中毒症状を起したところのある子どものお母さんが、病院がなくなれば引越すを考えていると話していました。この声がなぜ市に伝わらないのか」と憤りました。参加者は「子どもは難病で、体調を崩すと肺炎になる傾向が高く入院しないで快復することは不可能です。家から近く入院できる病院がなくなることは本当に子どもにとって命にかかわります。急性期総合医療センターへは交通機関を利用しても非常に不便です。どうかなくさないでください」と訴えま

「ママの会」は会見後、吉村洋文市長へ要望書を提出し、共産、公明、自民の各市議会にも要請。日本共産党は瀬戸一正、尾上康雄両市議が応対し、懇談しました。



署名を提出する「住吉市民病院を充実させる市民の会」の人たち＝6日、大阪市役所



記者会見し、「住吉市民病院の医療機能の継続を」と訴えるママの会の人たち＝6日、大阪市役所